

公開実用 昭和61-159956

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭61-159956

⑬ Int. Cl. 4

A 63 B 23/02
A 47 C 7/46
7/50

識別記号

庁内整理番号

6547-2C
7309-3B
7309-3B

⑭ 公開 昭和61年(1986)10月3日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 不倒椅子

⑯ 実 願 昭60-44454

⑰ 出 願 昭60(1985)3月27日

⑱ 考 案 者 大 塚 正 士 大阪市東区豊後町10番地 大塚化学株式会社内
⑲ 出 願 人 大塚化学株式会社 大阪市東区豊後町10番地
⑳ 代 理 人 弁理士 三枝 英二 外2名



明 細 書

考案の名称 不 倒 椅 子

実用新案登録請求の範囲

- ① 設置時に設置面に接するベース部を有した台部及び該台部に支持されて起立する背部を備えた支持体と、前記台部上部に支持された座部と、前記背部に支持された背もたれ部とを備え、該背もたれ部は、前記背部に支持されて水平方向に延び座者の後傾時の荷重を受ける支持軸と、該支持軸に回動可能に取付けられた背もたれ板とを備えており、前記ベース部は、水平方向に少なくとも一方向へ突出した拡張部を有し、前記座部及び背部に対して垂直軸線まわりに回転可能となっており、前記拡張部は、椅子後方へ回転せしめられたときに該拡張部後端が、座者の最大後傾時における前記支持軸の位置より後方となるように突出せしめられていることを特徴とする不倒椅子。

② 前記背部が前記台部に対し実質上移動しないように固着されていることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項に記載の不倒椅子。

③ 前記背部が、前記台部に対し水平方向軸線まわりに回動可能に取付けられ且つ前方へのスプリング力をもつて起立せしめられており、前記拡張部は、座者の最大後傾に伴い前記背部が最も後方へ回動した際の前記背もたれ部支持軸の位置より後方となるように設けられていることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項に記載の不倒椅子。

④ 前記背もたれ板が、必要に応じ回動しないよう固定可能となつていることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項から第3項のいずれかに記載の不倒椅子。

考案の詳細な説明

産業上の利用分野

本考案は椅子に関する。

従来の技術

椅子には、事務用、学習用、安楽用、各種作業用、身体矯正用等、多種のものが存するが、いずれの用途においても、身体を単に支持するのみならず、必要に応じて身体を動かせるものが望まれることが多い。とりわけ長時間の着座の際の身体解放の他、特殊な作業や身体矯正のために、着座状態から座者自身の力で上半身を後傾させることが望まれる場合が多い。このような後傾が可能な椅子として、背もたれ部がスプリング力を伴って後方へ傾斜しうるものや、背もたれ板が水平軸まわりに回転しうるものが存した。

考案が解決しようとする問題点

然しながら、これらの椅子にあつては、通常の着座状態における安定性を中心に構成されており、座者の大きな後傾や反りの際に、不安定となり転倒を生じることもあるという点から、座者の後傾への要求に十分に対応できないという問題があつ

た。

本考案は、このような従来技術の問題点を解決し、座者の自らの力による後傾への要求に十分対応しうる椅子を提供することを目的とする。

問題点を解決するための手段

本考案の前記目的は、設置時に設置面に接するベース部を有した台部及び該台部に支持されて起立する背部を備えた支持体と、前記台部上部に支持された座部と、前記背部に支持された背もたれ部とを備え、該背もたれ部は、前記背部に支持されて水平方向に延び座者の後傾時の荷重を受ける支持軸と、該支持軸に回動可能に取付けられた背もたれ板とを備えており、前記ベース部は、水平方向に少なくとも一方向へ突出した拡張部を有し、前記座部及び背部に対して垂直軸線まわりに回転可能となっており、前記拡張部は、椅子後方へ回転せしめられたときに該拡張部後端が、座者の最大後傾時における前記支持軸の位置より後方とな

るように突出せしめられていることを特徴とする不倒椅子により達成される。

前記背部は前記座部に対し実質上移動しないように固着されることができる。

前記不倒椅子はまた、前記背部が、前記台部に対し水平方向軸線まわりに回動可能に取付けられ且つ前方へのスプリング力をもつて起立せしめられており、前記拡張部は、座者の最大後傾に伴い前記背部が最も後方へ回動した際の前記背もたれ部支持軸の位置より後方となるように設けられたものとすることができる。ここでいう前記背部が最も後方へ回動した状態とは、該背部が座者後傾時に一定位置で回動を制止させられる場合は該制止された状態をいい、該背部が座者後傾に伴って一定の制限なく弾性的に回動する場合は想定される通常の使用者が座部から腰を浮かせた最大後傾状態（第3図参照）における前記背部の回動状態をいうものとする。

いずれの場合も、前記背もたれ板は必要に応じ
回動しないように固定可能とすることができる。

実 施 例

以下、本考案の実施例を添附図面と共に説明する。

第1図に示す不倒椅子(1)は、支持体(2)、座部(3)及び背もたれ部(4)を備えている。支持体(2)は台部(20)、及び該台部に支持されて起立する背部(21)を備えており、台部(20)は座部(3)を支持する平板状の座部支持部(201)と、該座部支持部(201)の略中央から下方に延びた支柱(202)と、支柱下端部に取り付けられて略水平方向に延び椅子設置面に接するベース部(200)とを備えている。ベース部(200)は支柱(202)を介して座部支持部(201)に対し垂直軸線まわりに回転可能とされている。ベース部(200)は平面視矩形であり、その外周部下面が椅子設置面に接する

ようになつており、矩形中の長手方向突出部分が拡張部（203）となつている。拡張部（203）は、ベース部（200）の回転により椅子後方へ移動せしめられたときに、後端が、以下に説明する背もたれ部（4）の支持軸（40）より後方へ達するように、前記矩形の幅方向寸法に対する突出量が決められる。拡張部（203）が椅子後方へ回転せしめられた状態を第1図に一転鎖線で示す。背部（21）は、座部支持部（201）後端部に固着されて起立する1対の金属パイプにより構成されている。座部（3）の構成は、硬質材、軟質材、スプリング支持のもの等、自由である。背もたれ部（4）は、背部（21）の1対の金属パイプ間に支持されて水平方向に延びた支持軸（40）と、支持軸（40）に回動可能に取付けられた背もたれ板（41）とを備えている。

この椅子（1）は次のようにして使用することができる。通常の着座姿勢をとる場合は、ベース

部（２００）の回転方向における位置は任意である。したがって設置スペース等に合わせて拡張部（２０３）を左右、斜め方向等に向けることができ、設置上の便が図られる。拡張部（２０３）が椅子後方へ回転せしめられたとき（もう一方の拡張部は当然椅子前方に位置する）は、以下のように椅子（１）を使用することができる。座者は、通常の着座姿勢から背もたれ板（４１）の回動を伴って容易に後傾姿勢をとることができる。この状態を第２図に示す。支持体（２）は、背部（２１）が座部支持部（２０１）に固着されているので、座者の最大後傾時にも実質上一定の位置を維持する。後方へ回転せしめられた拡張部（２０３）により形成されるベース部後端は、前述の如く背もたれ部支持軸（４０）より後方に至っているので、座者が大きく後傾しても、椅子（１）は不安定となつたり転倒を生じることがない。したがって座者は、例えば第３図に示す如く、

腰を座部（３）から浮かせた大きく反った姿勢をとることもできる。後方へ回転せしめられたときの拡張部（２０３）後端の、座者の最大後傾時における支持軸（４０）の位置（この例では実質上一定となる）より後方５cm以上とされるのが望ましく、５cmから２０cmとされるのがより望ましい。この距離が５cmより小さいと椅子の転倒または不安定化防止の確実さに欠ける場合がある。２０cmより大きいと椅子設置面積が増大する割には椅子の安定性は増加せず不要な大きさを有することとなり、望ましくない。

なお、通常の着座姿勢をとるときは、第１図に一点鎖線（Ａ）で示すようにピンを背部（２１）を貫通して背もたれ板（４１）に通し、背もたれ板（４１）を固定するようにしてもよい。

第４図に示す不倒椅子（１Ａ）は、金属製支持体（２Ａ）を有し、座部（３）、背もたれ部（４）を備える点は前の椅子（１）と同じである。以下

の例において同種の部材又は部分は同一番号で示す。この例では支持体（２Ａ）の背部（２１Ａ）は座部支持部（２０１Ａ）に水平方向軸（２１０）により回動可能に支持されており、座部支持部（２０１Ａ）に取付けられた箱状枠体（２１１）と背部（２１Ａ）下面との間に挿入された圧縮コイルばね（２１２）により、前方へのスプリング力をもつて起立せしめられている。背部（２１Ａ）は座者の後傾に伴つてスプリング力に抗して軸（２１０）まわりに回動し、座者が最も大きく後傾したときには、背部（２１Ａ）下部後端が枠体（２１１）に当接して回動を停止する。後方へ回転せしめられた際の拡張部（２０３）後端は、このようにして背部（２１Ａ）が最も後方へ回動した際の支持軸（４０）の位置より後方となるようにされており、望ましくは前の例において述べた如き位置とされる。

したがつて座者は背もたれ板（４１）の回動及

— １０ —

び背部（21A）の回動の双方を利用して容易に後傾姿勢をとることができ、例えば前述の例における第3図に示した如き大きな後傾を行なつて背部（21A）が最後方位置まで回動しても、ベース部（200）の前述の如き後方支持により椅子（1A）は、不安定になつたり転倒を生じたりすることがなく、座者の後傾への要求に十分応えることができる。

ベース部は、前述の例のものに限らず、水平に少なくとも一方向に突出した拡張部を有した種々の形態とすることができる。尤も、前述の例の如く相反する2方向に突出させて拡張部を設けた場合は、座者は後傾時に椅子前側に位置する拡張部を踏むこととなり（第3図参照）、椅子転倒防止効果をより確実にすることができる。第5図に示すベース部（200A）は支柱（202）下端から放射状に延びる4本のロツド（204）を備えており、隣り合う2本のロツド（204）が他の

ロツドより突出せしめられて一方向への拡張部
(203A)を形成している。

本考案椅子は、前述の如き金属パイプ製のものの
他、木製椅子、ソファ等種々のタイプの椅子と
することができるのは勿論である。

考案の効果

本考案によれば、次の効果を奏する椅子を提供
することができる。すなわち、通常の着座姿勢を
とるときは、拡張部は、ベース部の回転可能な取
付けにより設置スペース等に合わせて位置決めで
き、椅子設置の便を図ることができる。拡張部が
椅子後方となるようにベース部を回転した場合は、
拡張部後端は座者の最大後傾時における背もたれ
部支持軸より後方に至るので、座者は転倒や不安
定化のおそれなく後傾することができまた回動可
能な背もたれ板により座者の後傾が容易に行なわ
れるようになっていいる。したがって本考案に係る
椅子は、座者の後傾への要求に十分対応すること

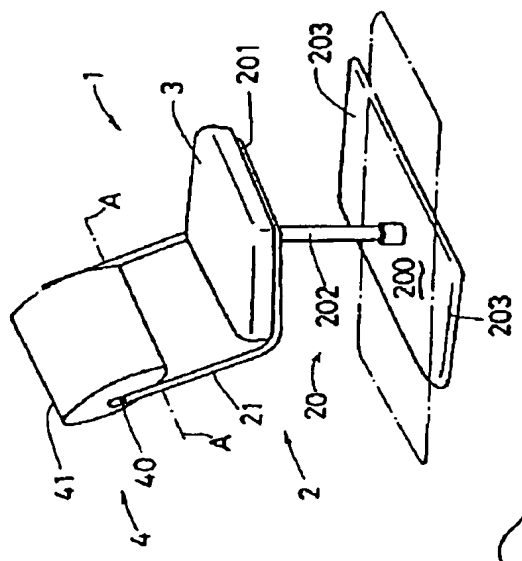
ができる。

図面の簡単な説明

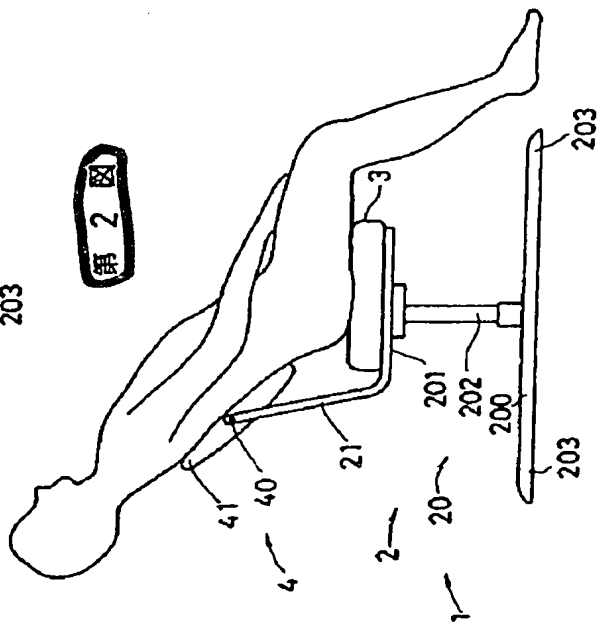
図は本考案の実施例を示すもので、第1図は1例の斜面図、第2図は第1図の例の1使用状態を示す側面図、第3図は他の使用状態を示す側面図、第4図は他の例の側面図、第5図はさらに他の例の斜面図である。

- (1)、(1A) … 不倒椅子、
- (2)、(2A) … 支持体、
- (3) … 座 部、
- (4) … 背もたれ部、
- (20) … 台 部、
- (21)、(21A) … 背 部、
- (40) … 背もたれ部支持軸、
- (41) … 背もたれ板、
- (200) … ベース部、
- (201)、(201A) … 座部支持部、
- (203)、(203A) … 拡張部

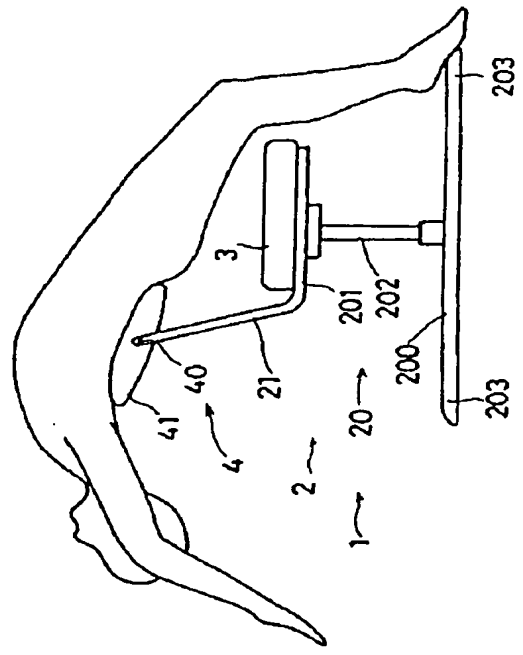
第 1 図



第 2 図



第 3 図



- 1 ----- 不倒椅子
- 2 ----- 支持体
- 3 ----- 座部
- 4 ----- 背もたれ部
- 20 ----- 台部
- 21 ----- 背 部
- 40 ----- 背もたれ部支持軸
- 41 ----- 背もたれ板
- 200 ----- ベース部
- 201 ----- 座部支持部
- 202 ----- 板張部
- 203 ----- 板張部

510

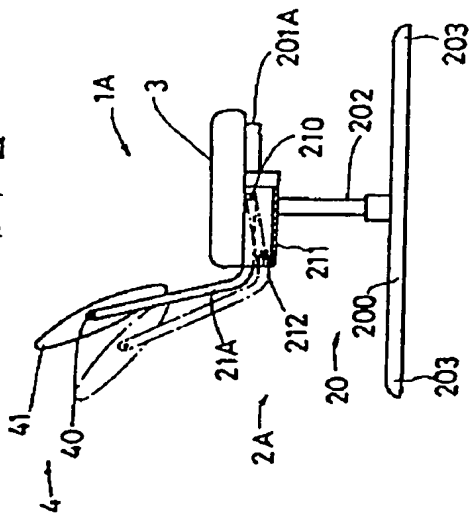
代理人 三枝英二

実開61-159956

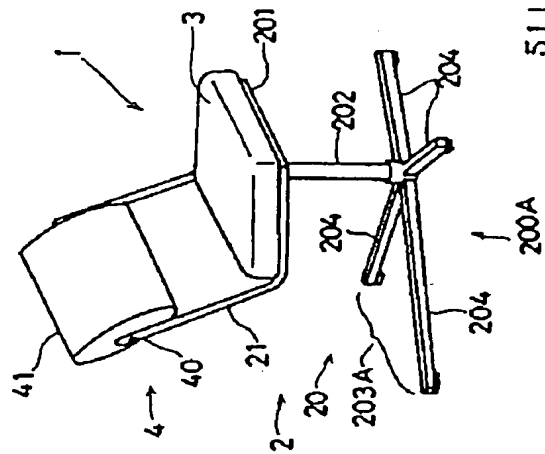


- | | | |
|-----------|-----|----------|
| 1, 1A | --- | 不倒椅子 |
| 2, 2A | --- | 支持体 |
| 3 | --- | 座部 |
| 4 | --- | 背もたれ部 |
| 20 | --- | 台部 |
| 21, 21A | --- | 背部 |
| 40 | --- | 背もたれ部支持軸 |
| 201, 201A | --- | 座部支持部 |
| 203 | --- | 拡張部 |
| 41 | --- | 背もたれ板 |
| 200 | --- | ベース部 |

第 4 図



第 5 図



511

代理人 三枝 英二
実用61-159956